

平成24年度八重山群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

I 2月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	40	40
平年並	30	30	30
低い(少ない)	20	30	30

(平成25年1月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	19.1	21.6	16.9	139.4	82.1

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 2月の発生予報および防除上の注意事項

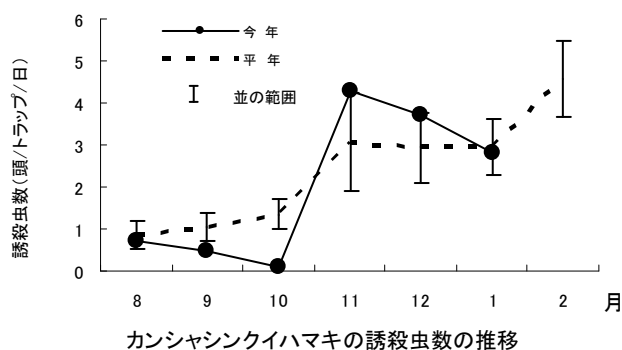
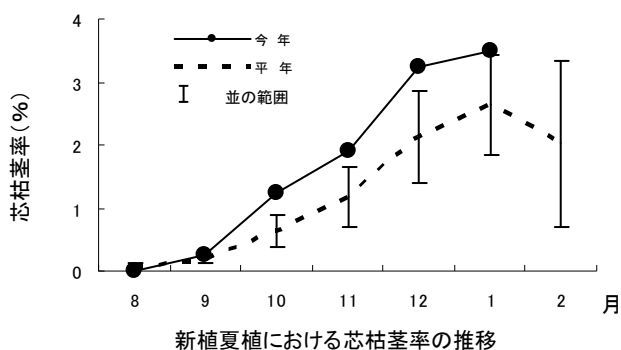
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : 並

予報の根拠

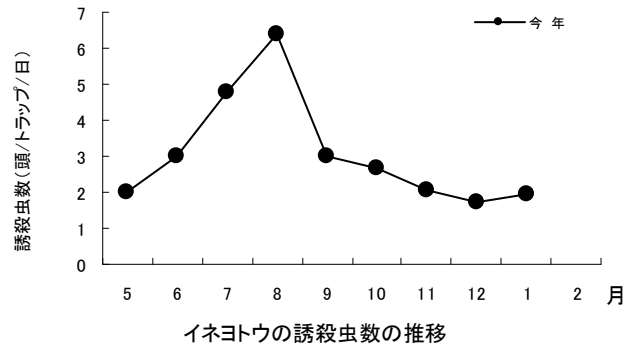
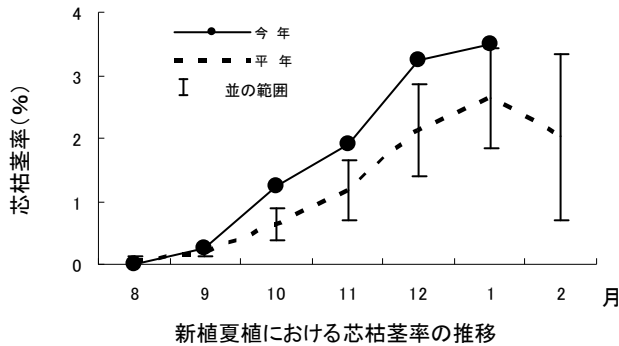
- 1月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は3.5%(前年4.2%、平年2.6%)と平年よりやや高かった。
- 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.8頭(前年5.1頭、平年3.0頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 夏植えの培土時や春植えの植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

- イネヨトウの防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は3.5%(前年4.2%、平年2.6%)と平年よりやや高かった。
 - b 1月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.9頭であった。
 - c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

- 野その防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、被害茎率は0.9%(前年0.1%未満、平年0.5%)と平年よりやや高かった。
 - b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
 - c 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。
- 収穫後圃場におけるカンシャコバナネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策
 - a 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残存し、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
 - b 卵の死亡率を高め、第1次世代の発生を抑制するため、収穫後は全面および畝間の耕耘を速やかに行う。

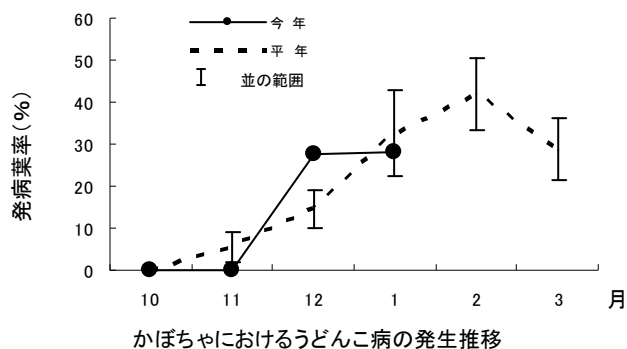
2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 本病は、出雷前の芽に潜在感染するので、着果後の被害軽減のため、この時期からの予防に努める。
 - b 不要な新梢や罹病した枝葉は発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
 - c 出蕾がみられる園では、花芽に対して薬害の少ない薬剤を選定する。
- ハダニ類の防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0.1頭未満(平年0.6頭、前年0頭)と平年並であった。
 - b 出蕾がみられる園では、花芽に対して薬害の少ない薬剤を選定する。

3 かぼちゃ

- (1) うどんこ病
発生程度 : 並
予報の根拠

1月中旬の調査の結果、発病葉率は28.0%(前年33.8%、平年32.6%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 発生源となる株元の不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 着果期以降、草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので、防除を徹底する。

- 細菌性病害の防除対策

- 強風による傷や降雨は、斑点細菌病や葉柄腐敗症などの発生を助長する。
- 防風垣は次期作まで残し、予防散布と初期防除に努める。

4 さやいんげん(施設)

- 菌核病の防除対策

- 1月下旬の調査の結果、発病株率は10.3%(前年6.7%、平年8.2%)と平年並であった。
- 例年発生時期に当たるので、予防防除に努める。
- 多湿時に発生しやすいので、不要な老葉・下葉を除去し、透光通風を良くする。
- 発病部位は早めに除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 平成23年度病害虫発生予察技術情報第9号(平成24年2月1日付)参照。